

「いいね！大和」 アタック15（詳細版）

平成26年11月 小田博士

【はじめに】

・「地方分権」の必要性が叫ばれて久しくなりました。市町村の行政は、国や県におんぶにだっこをしてもらう進め方ではなくなりつつあり、自治体間が行政サービスの「善政」度合いを競争する時代になってきています。バラマキ合戦とならないように留意しつつも、自治体同士がお互いに切磋琢磨して新たな取り組みを進めることで、日本社会がさらに活性化していくと考えます。

・大和市は平成12年に特例市に移行し、環境行政や産業・経済など一定の権限が移譲されています。平成27年4月の特例市制度の廃止に伴い、中核市に移行するかを検討しています。私は、「善政競争時代」を勝ち抜くためにも、市民一人一人が「いいね！」と高く評価するような魅力あふれる街づくりを進めたいと考えます。

・大和市は、電車や自動車で東京や横浜に出やすく、交通の利便性が高く住みやすい街です。その割に自然も多く、日ごろの疲れを癒す街でもあります。刑法犯の認知件数や交通事故件数は減っており、年間交通事故死者ゼロに手が届きそうになるなど、「安全・安心の街づくり」は進んできています。大和市の人口が増え続けているのは、そんな魅力に理由があるのではないのでしょうか。

・一方、市の課題をチェックしますと、企業の本社の転出超過数（実質的に減った数）は県内の市郡で最も多く、「産業の空洞化」が進んでいます。子育て面では、待機児童の数が全国の自治体で43番目に多いです。文部科学省が毎年実施している「全国学力テスト」（全国学力・学習状況調査）のデータによると、大和市の小学生の平均点は、国語・算数のいずれの教科でも全国最低だった道県の平均点より低く、小学生の学力不足は否定できません。課題は山積しています。

・以下に示す15のプランは、大和市の長所を伸ばしつつ課題を克服することで、「いいね！」があふれるような大和市を実現するための政策目標です。市議会議員は執行機関ではなく、市長のように強大な権限はありません。中長期的な課題も多々ありますが、一步一步着実に進められるよう努めます。市民の皆様の声を市政に反映するのが市議の基本的な役割です。このプラン以外にも、皆様の声を真摯に伺い、市役所に届け、政策に反映できるよう精一杯、頑張ります。

【「いいね！大和」 アタック15の骨格】

・以下は、私が取り組みたいと考える15のプランです。下線をつけた7項目は最重点で取り組みたい項目です。

(1) 市政活性

①議会のチェック機能強化で市政に緊張感

②広報体制を拡充し「発信」する大和へ

③財政の「見える化」を進め、財政健全化

(2) ふるさと創生

④市総ぐるみで「いいね！」あふれる大和に

⑤企業誘致やフィルムコミッション拡大で「産業空洞化」県内ワースト1を脱却

⑥婚活支援で根本から少子化対策

⑦認定こども園増設などで待機児童数県内ワースト3の汚名返上

⑧厚木基地騒音被害軽減やイベント拡充で基地と共生

⑨交通事故死者ゼロをめざし安全・安心の街づくり

⑩交通渋滞緩和をはじめ桜ヶ丘駅周辺地域を活性化

(3) 教育再生

⑪学力テストの上位学校名公表などで深刻な学力不足を解消

⑫「大和偉人伝」の教材化などで郷土愛を培う道德教育を充実

⑬メディアリテラシー教育推進で多角的な視点を持つ人材を育成

⑭退職高齢者の積極登用で子供と高齢者が共生する教育環境を整備

⑮生涯学習やサークル活動充実で誰もが学びやすい街へ

【各プランにおける問題意識と考え方】

(1) 市政活性

アタック 1：議会のチェック機能強化で市政に緊張感

<問題意識>

・部下の女性のパワハラを助長したなどとして滝沢正・前市教育長が辞職した「パワハラ問題」。市議会でも質疑がなされています。ただ、市民の間で話題になっているようには見受けられません。なぜでしょうか。

・大和市政をチェックする役割の一翼を担う大和市の記者クラブには、地元紙・神奈川新聞のほか、全国紙3紙しか所属していません。しかも、加盟している各社は常勤ではありません。「地方分権」の時代と言われるものの、国政や神奈川県政、横浜市政と違って、大和市政はメディアのチェックが十分に行われていないのではないかと考えられます。これは大和市だけでなく、基礎自治体と呼ばれる市町村に共通した課題です。政治が身近になればなるほど、メディア側のチェック機能は働きづらくなっています。

<考え方>

・市政を適切に進めていくためには、チェック&バランスが最重要です。現場に立つ市民の目線で、市政を厳しくチェックし、住民の声を率直に届けることで、市政に緊張感が生まれ、さらなる発展に寄与すると考えます。もちろん、市議の皆さんも市政を適切にチェックされていると思います。ですが、私は、見出しをつける整理記者として3年、現場を取材する取材記者として13年の計16年間の新聞記者としての経験を活かし、厳しく市政をチェックしていきます。議会のチェック機能もさらに強化したうえで、市民への「見える化」も進めていきたいと考えます。

アタック 2：広報体制を拡充し「発信」する大和へ

<問題意識>

・大和市の広報誌「広報やまと」は毎月1日と15日に約8万5000部発行され、自治会経由で配布されています。ただ、実際に手にとって読まれる方はそれほど多くはないのではないのでしょうか。

<考え方>

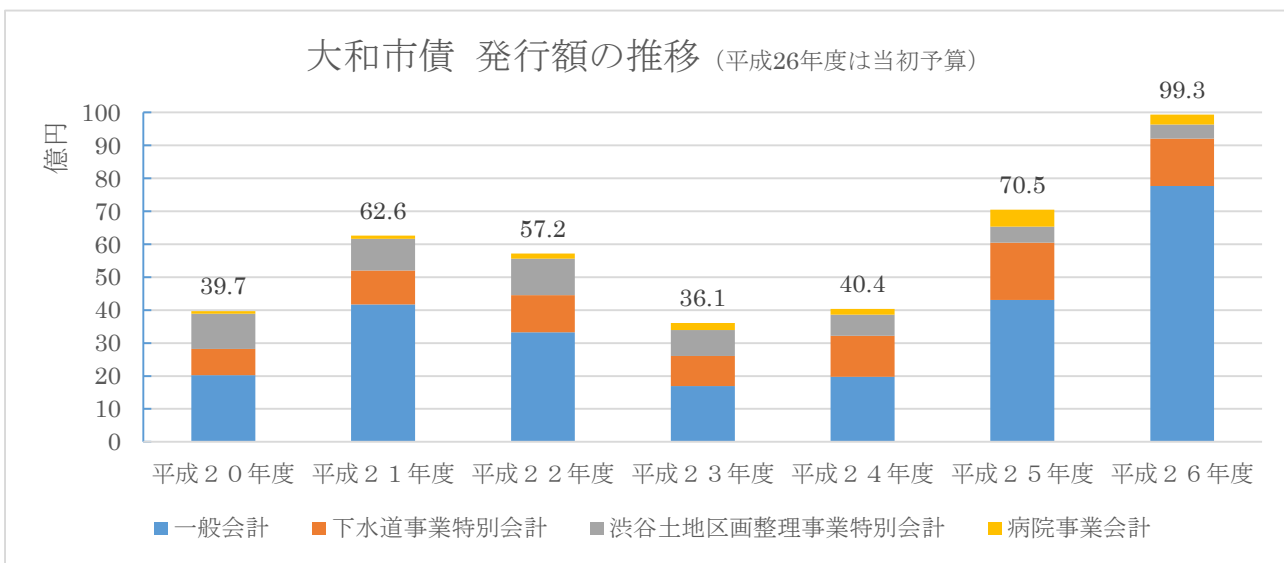
・大和市の発信力を強化したく考えます。そのためには、広報体制や広報機能の拡充が必要です。私は、読まれる広報誌への改革を提案します。

・たとえば、大和市在住者や出身者のなかで、活躍している方のインタビュー記事を掲載するなどして、単なる行政情報以上のものを発信してはどうでしょうか。「先ず隗より始めよ」という故事がありますが、広報誌を読まれるように改革し、まずは大和市民に大和市を知ってもらい、好きになってもらう。これが市の活性化に向けて重要なプロセスです。Eメールで情報を配信するメールマガジンの充実や拡大、広報掲示板のさらなる増設—なども行ったほうがよいと考えます。

アタック 3 : 財政の「見える化」を進め、財政健全化

<問題意識>

・大和市の市債残高（全会計）は平成25年度末時点で826億円です。市民一人当たり37万円の借金を抱えていることとなります。大和市自体は発展期から成熟期に移行し、大型公共事業が減ったことなどにより、平成10年度以降、市債残高を毎年、減少させてきました。ただ、平成26年度は大和駅東側の再開発事業などのために市債を多額に発行する影響で、市債残高は16年ぶりに増加に転じる見通しです。無駄遣いがないかどうか、費用対成果を一つ一つ検証していくことが重要です。



<考え方>

・国政では民主党政権時代、行政刷新会議が「事業仕分け」を実施しました。蓮舫氏の「2位じゃダメなんですか」といった発言が注目を集めました。結局、期待された規模の予算の捻出はできませんでした。メディア受けを意識し、官僚を悪人に仕立てるなど、パフォーマンス重視に走ったことも、失敗した一つの原因だと考えます。

・ただ、予算が適正に執行されているかをチェックすることは、正しいプロセスです。自民党政権である今の安倍晋三内閣も、「行政事業レビュー」として各省が個別に行う事業仕分けを引き継いでいます。大和市では、「決算における主要な施策の成果の説明書」などで、決算の成果や課題を示す資料を作成しています。市役所で閲覧でき、購入もできますが、幅広く市民に関心を持ってもらうためにHPで公開するよう提案します。行政事業を市民が厳しくチェックできることは、市政の緊張感を高め、行政の効率化や無駄の削減にも寄与すると考えます。私はこれまでの経験を活かし、市政の無駄遣いがないか厳しくチェックしていきます。

・大和市は毎年、1万人強が転入し、転出する住民の移り変わりが多い地域です。ですが、神奈川県や東京都の別の市区町村に移り住む方でも、大和市に愛着を持っている方は多いはず。都道府県や市区町村に寄付をすると、寄付金のうち2000円を超える部分について、所得税や住民税から全額が控除される「ふるさと納税」制度があります。ただ、まだ根付いていないとは言えません。ふるさと納税制度の認知度を高め、活性化させていくことも、市税の税収増加に一定の効果があるのではないのでしょうか。

・東京都などですでに導入されていますが、現在は「単式簿記」である市の会計を「複式簿記」化し、市の保有資産の運用状態や資産と負債のバランスをわかるようにすることも、市の財政健全化や財政の「見える化」を進める上で有効な案だと考えます。

(2) ふるさと創生

アタック4：市総ぐるみで「いいね！」あふれる大和に

<問題意識>

・私は産経新聞社に入社して数年目まで、25年間、大和市に住み続けましたが、首都圏に住む知人や先輩らから出身地を尋ねられ、私が「大和市」と答えても知らない人が大勢いました。大和市には、芋焼酎「和み」や和菓子「やまと最中」などの特産品がありますが、認知度の面では課題があるとみられます。

<考え方>

・誰が聞いてもわかるような大和市のウリや特色を作れば、市が活性化していくのではないかと考えます。たとえば、「大和なでしこカップ」（女子サッカー推進事業）を活性化させることで「女子サッカーの大和」と売り出すことも可能でしょう。平成27年1月の「全日本バレーボール高校選手権大会」（春高バレー）女子の部で10年連続11度目の全国大会出場となる大和南高校を積極的に支援することで、「女子バレーが強い大和」と打ち出すこともできると思います。大和スポーツセンターで開かれる「大相撲大和場所」（地方巡業）を活発化させれば、「相撲の大和」とアピールできるかもしれません。同じ「ヤマト」つながりで、アニメ「宇宙戦艦ヤマト」のミュージアムを市内に設置することも一案です。東京都東村山市では、お笑いタレントの志村けんさんが歌うことで、「東村山音頭」が一躍有名になりましたが、同様のことができるかもしれません。

・全国に発信できる大和の「目玉」を作りたく考えます。市役所、議会、市民が一体となり大和市総ぐるみとなって、何か一つ、具体的な政策目標を設定できれば、「いいね！」があふれるような、誇りを持ちやすい郷土づくりが推進できると考えます。

アタック5：企業誘致やフィルムコミッション拡大で「産業空洞化」県内ワースト1脱却

<問題意識>

・大和市には以前、日本ビクターの工場や日本IBMの事業所がありましたが、撤退してしまいました。上和田地区の鹿島建設機械技術センターは小田原市に移転し、跡地の大半は利用計画が決まっていません。

・いささか古いデータになりますが、帝国データバンク横浜支店が平成24年3月に公表した「神奈川県本社『転入転出企業』の実態調査」によると、平成23年までの10年間に神奈川県内で本社転移が判明した企業は、大和市では転出数が222で転入数が212です。つまり、大和市から出ていく転出企業は、大和市に入ってくる転入企業より10多く、転出数から転入数を差し引いた「転出超過数」は神奈川県内で最多となっています。この調査によると、都道府県間の比較では、

神奈川県は「転入超過」が全国2番目に多いのですが、大和市は逆に、「産業の空洞化」が進んでいるのです。

・大和市は住宅地が多く、空いている土地が少ないため、大規模な工場の誘致は難しい側面もあると聞きます。ただ、これだけ企業が減っているのに、「誘致活動そのものをやっていない」（市職員）という状況を放置しては、市の産業は徐々に衰退してしまうのではないのでしょうか。

神奈川県市郡別の本社移転状況(平成14～23年)

転入超過が多い市郡

順位	市郡名	転入数	転出数	増減数
1	横浜市	2228	1805	423
2	川崎市	1098	960	138
3	藤沢市	313	253	60
4	相模原市	414	357	57
5	伊勢原市	112	67	45

転出超過が多い市郡

順位	市郡名	転入数	転出数	増減数
1	大和市	212	222	▲10
2	三浦市	20	29	▲9
3	高座郡	49	56	▲7
4	平塚市	132	137	▲5
5	秦野市	44	46	▲2

帝国データバンク横浜支店調べ

<考え方>

・全国農業協同組合連合会（全農）とキューピー株式会社が業務用野菜を加工・販売するための合弁会社を設立し、大和市内に新工場を建設するといった明るいニュースもあります。ただ、これは市の誘致活動の成果ではないとのこと。産業活性化は、受け身な状態にとどめるのではなく、前向きに取り組まなければなりません。私は、市に対し、企業誘致活動や誘致を促す施策を積極的に行うよう求めたいと考えます。

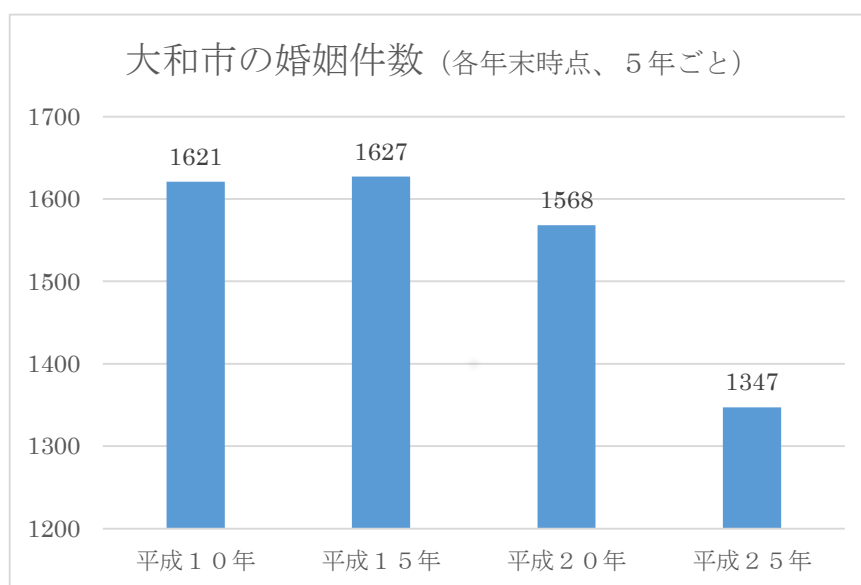
・また、映画やドラマの撮影場所を誘致する「フィルムコミッション」を拡大していくことを提案します。平成24年度は60件あり、近年では、「GTO」（フジテレビ系）に大和の商店街が、「昼顔」（フジテレビ系）では泉の森の公園が使われました。古くさかのぼりますと、小林明子さんの「恋におちて」が主題歌だったドラマ「金曜日の妻たちへII」（TBS系）の物語の舞台は中央林間でした。

・フィルムコミッションをさらに拡大・発展させていくことで、大和市の認知度を向上させ、誰でも知る街づくりを目指します。認知度が高まれば、大和市を訪れたり移住したりする方が増え、市がさらに活性化していくと考えます。

アタック 6 : 婚活支援で根本から少子化対策

<問題意識>

・出生率が低下し、少子化社会が進む根本的な原因として、出産する前提となる結婚自体が少なくなっている現状があります。基本的には結婚しない限り、子供は生まれません。大和市の婚姻件数は平成25年時点で1347件となり、5年前と比べて14%も減っています。未婚者の中には「結婚したいのだけれども、出会いの場がない。少ない」「なかなか良い人にめぐりあえない」といった声がよくあります。



<考え方>

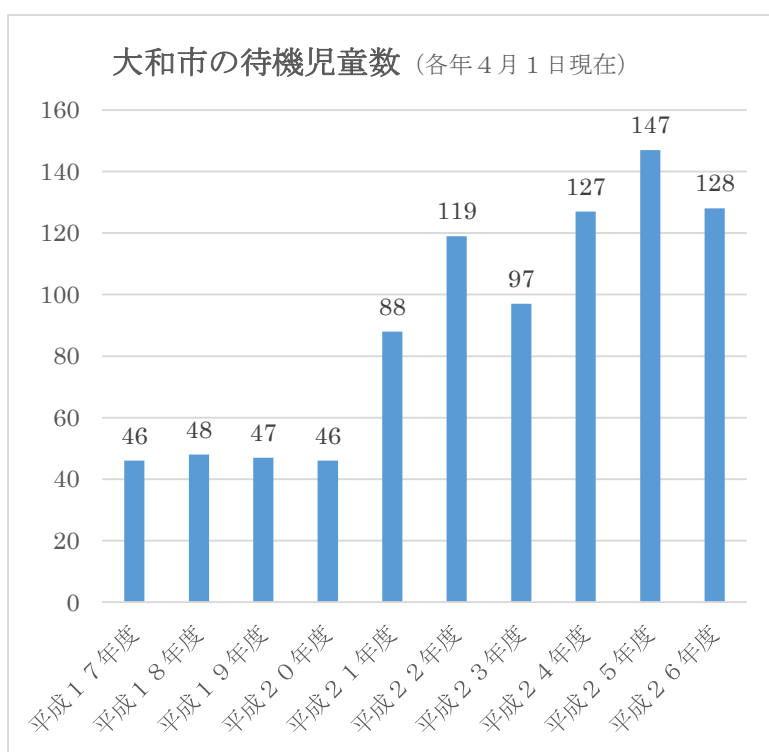
・まず男女が出会う機会を増やし、出会いの場を活発化させることが大切です。大和駅や中央林間駅の周辺で独自に行われている「街コン」を別の区域にも拡大し、活発化していくことで、男女の出会いの場を提供し、婚姻数の増加、ひいては出生数の増加につなげられればよいのではないかと考えます。

アタック7：認定こども園増設などで待機児童数県内ワースト3の汚名返上

<問題意識>

・「働きたくても働けない」ー。子育てをするママさんからは、そんな声が聞かれます。延長保育や学童クラブの時間延長など、子育てする女性が働きやすい環境を整備することは、少子化問題を解決するうえでも重要です。子育てサービスの向上は、大和を住みたい街に選ぶ大きな理由になると考えます。

・待機児童問題の解決が叫ばれてから長い月日が続いています。安倍政権でも、「待機児童ゼロ」を目標に掲げています。大和市内の保育所は増加しており、平成26年10月で24園となります。ただ、待機児童問題の解消には至っておらず、大和市の待機児童数は近年、増加傾向にあり、平成26年4月1日時点では128人に達しています。これは、厚生労働省の統計によると、全国の自治体で43番目、神奈川県内では藤沢市、茅ヶ崎市に次いで3番目の多さです。潜在的な待機児童数はもっと多いとみられており、待機児童対策は市政のなかでも重要性が高い課題だと考えられます。



待機児童が多い全国の市区町村

順位	自治体名	人数
1	東京都世田谷区	1109
2	東京都大田区	613
3	宮城県仙台市	570
4	東京都板橋区	515
5	東京都練馬区	487
	?	
19	神奈川県藤沢市	258
	?	
39	神奈川県茅ヶ崎市	140
	?	
43	神奈川県大和市	128

(平成26年4月1日現在、厚生労働省資料より)

<考え方>

・大和市は人口23万人と規模が大きいうえに、30～40歳代の人口比率が高い都市です。子供が多いのに受け皿が少ないことから、このような事態に陥っていると考えられます。大和市では、緊急対策として平成26年度に民間保育所2園を整備するなど努力を重ねていますが、保育所の新設はさらに積極的に進めなければなりません。

・教育機能を担う幼稚園に保育の機能を加える「認定こども園」の増設も急務だと考えます。私が育った高座みどり幼稚園（大和市南林間）は平成27年4月から、認定こども園に移行しますが、これが大和市で初めてのケースで、他にはありません。

・平成27年4月から始まる「子ども・子育て支援新制度」に移行した場合、大規模な園が減収になってしまう恐れがあるという問題もありますが、就学前の0～2歳児を受け入れる認定こども園が広がれば、待機児童の減少につながるはずですが、これらの問題にも政策的配慮を加えたうえで、認定こども園を増設していかなければなりません。

・お隣の横浜市では、子供の預け先に関する保護者の相談に応じ、保育所や預かり保育などについて情報提供する「保育コンシェルジュ」の制度が導入されています。これは待機児童解消にも一定の効果があるとされます。「保育コンシェルジュ」が一部の保育園と癒着しないよう制度的な担保をしたうえで、大和市でも導入を検討してみてもはいかがでしょうか。

アタック8：厚木基地騒音被害軽減やイベント拡充で基地と共生

<問題意識>

・日米同盟は日本の安全保障の基盤であり、大変重要です。米軍が日本に駐留することで、尖閣諸島をはじめとした南西諸島の脅威や北朝鮮のミサイルなど安全保障上の脅威に対する大きな抑止力となっています。日米同盟は今後、さらに深化させなければなりません。ただ、米軍や海上自衛隊が駐留する厚木基地は沖縄県の普天間飛行場と同様、市街地の中心部にあります。騒音問題の解消は、私たち市民に共通した願いです。

<考え方>

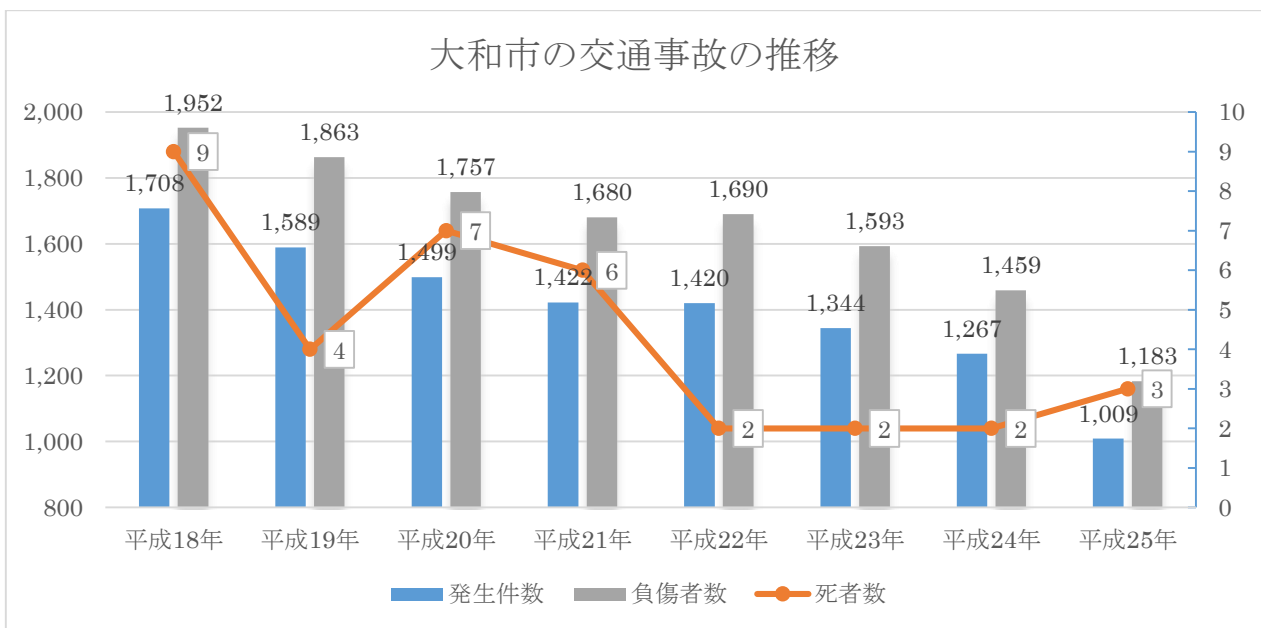
・スーパーホーネットなどの戦闘機（空母艦載機）の厚木基地から岩国基地（山口県）への平成29年ごろの移転（予定）が先送りされないよう、私は積極的に働きかけていきます。

・厚木基地では、ゴールデンウィーク期間に春祭りを開催し、市民に基地を開放するなどしています。私自身、記者時代に厚木基地を見学し、潜水艦などを発見するための新型の対潜哨戒機P-1に試乗した経験もありますが、基地を実際に見ることで親近感が非常に高まりました。基地開放のイベントをさらに活性化させ、基地と市民が共存する街づくりをさらに進めたく考えます。

アタック 9：交通事故死者ゼロをめざし安全・安心の街づくり

<問題意識>

・ずいぶん前になりますが、私が千葉総局で記者をしていた頃、酒酔い運転のトラックによる事故の被害にあって車が炎上し、3歳と1歳の愛娘2人を亡くされた千葉市のご遺族（夫妻）を取材したことがあります。この夫妻は他の交通事故遺族と署名活動を大規模に展開し、飲酒運転の罰則を強化する刑法改正の原動力となりました。ご自宅で伺ったつらい話や、遺族の男性が上着を脱いで見せた体の傷跡は、壮絶なものがありました。事故死者ゼロは私たち市民の共通の願いです。



<考え方>

・シートベルトの着用率向上やエアバッグの普及、厳罰化や取り締まり強化に伴う悪質運転の減少などによって、交通事故死者は全国的にも減っています。大和市内でも近年は数人となっており、もう一步で「事故死者ゼロ」に手が届きそうです。危険な交差点へのミラーの設置や歩道の拡充、キャンペーンの拡大などにより、交通事故減少を進める取り組みを積極的に支援していきます。

アタック10：交通渋滞緩和をはじめ桜ヶ丘駅周辺地域を活性化

<問題意識>

・大和市は、交通の利便性が高い一方で渋滞問題も抱えています。ガソリン代がかかり、約束の時間に遅れる可能性が増し、病院に急いで行きたくても時間がかかる…。渋滞によって損失した時間は、労働生産力の低下だけでなく、さまざまな社会的なロスをもたらします。渋滞緩和は緊急性の高い課題です。

・特に大和市を横断する小田急江ノ島線桜ヶ丘駅周辺の県道45号丸子中山茅ヶ崎線や、国道467号線は慢性的な交通渋滞となっています。県道45号丸子中山茅ヶ崎線は、同駅東側で4車線化に向けた用地買収が進む一方、西側の拡幅は事業化が遅れています。

・一方、桜ヶ丘駅周辺ではシャッターが閉まっているお店があり、駅東側の地域の公園整備は遅れています。狭い道路が多く消防車などが通行しづらいため、災害発生時の対応で課題も抱えています。市内の均衡ある発展へ向けて、何とかして「南北格差」を解消しなければなりません。

<考え方>

・学識経験者や商工会議所、鉄道事業者、大和市と神奈川県で構成される「桜ヶ丘地区交通まちづくり検討委員会」が平成23年5月、県道45号丸子中山茅ヶ崎線と小田急江ノ島線の立体交差方式について「鉄道高架方式が最もふさわしい」と提言して以来、立体交差については動きがみられません。県と市が連携して立体交差の動きを進めていくとともに、期限が延長された同線の4車線拡幅工事や桜ヶ丘駅周辺の同県道の歩道整備が着実に進められるよう、私は積極的に働きかけていきます。

・桜ヶ丘駅周辺の活性化については、毎年春に開かれている「桜ヶ丘桜まつり」だけでなく、たとえば、市内の他の地域で行われている「ちょい呑み」のようなイベントを新たに開催するなどして、駅の東西地区の連携を強化しつつ、魅力ある街づくりを進めていきたいと考えます。

(3) 教育再生

アタック11：学力テストの上位学校名公表などで深刻な学力不足を解消

<問題意識>

・基礎学力の向上は、教育再生を進めるうえで重要です。文部科学省では、いわゆる「全国学力テスト」（全国学力・学習状況調査）を実施しており、大和市の小・中学校も参加しています。平成26年度（同年4月実施）の調査結果を見ると、大和市の平均点は小学生と中学生ともに、全国平均や神奈川県平均を下回っています。

・特に小学生は深刻で、全国平均より4・5～6・0点下回っています。都道府県別の平均点のデータと比較すると、大和市の小学生は、国語A・Bと算数A・Bの全教科で、最下位だった道県の平均点よりも低いのです。全国の市町村別の平均点は公開されていないので分かりませんが、大和市の小学生の基礎学力は、全国でもかなり低いレベルにあることは確かです。小学生の基礎学力向上は最重要の課題です。学習塾に通わなくても、基礎学力は保障されなければなりません。

全国学力テスト 大和市の平均点(平成26年度)

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
大和市	67.0	49.5	73.2	53.7
全国平均	72.9	55.5	78.1	58.2
大和市との差	+5.9	+6.0	+4.9	+4.5
神奈川県平均	71.3	54.6	76.9	58.6
大和市との差	+4.3	+5.1	+3.7	+4.9
都道府県レベル の最低平均点	69.4	52.4	75.6	55.2
	和歌山 県	愛知県	滋賀県	北海道
大和市との差	+2.4	+2.9	+2.4	+1.5

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
大和市	77.0	48.6	65.2	57.7
全国平均	79.4	51.0	67.4	59.8
大和市との差	+2.4	+2.4	+2.2	+2.1
神奈川県平均	79.2	51.5	67.0	60.8
大和市との差	+2.2	+2.9	+1.8	+3.1
都道府県レベル の最低平均点	74.4	45.6	58.2	50.3
	沖縄県	沖縄県	沖縄県	沖縄県
大和市との差	-2.6	-3.0	-7.0	-7.4

<考え方>

・大和市では、学校別の平均点などを公開していません。「過度な競争をあおる」「序列化を生む」といった懸念があることが非公開の理由とされます。

・一方、静岡県では、一部の科目（小学6年国語A）の成績が全国平均以上だった学校の校長名を50音順で公表しています。このような方式をとれば、成績が良かった学校を褒め称える目的での公表となります。50音順で列挙すれば、学校の序列化にもつながりません。このような部分的な公表システムを大和市でも取り入れてみたらどうでしょうか。適度な競争原理の導入は、教員のモチベーションを向上させ、教育の活性化に資すると考えます。

・大和市では平成27年4月から、市立小学校全19校で、空き教室を利用して予習復習を行う「放課後寺子屋」を開催する予定です。これを中学校にも拡大したり、放課後寺子屋で一定の成果が得られない場合は、「土曜補習」を小学校や中学校で新たに導入したりすることなどで、基礎学力を向上させ、学力不足問題に対応してみてもはどうでしょうか。

アタック12：「大和偉人伝」の教材化などで郷土愛を培う道徳教育を充実

<問題意識>

・道徳教育の重要性を疑う人はいません。だが、私が教育現場を取材していたころ、「教え方が難しい」という声はよく聞きました。「自分は、そこまで偉そうに物事を説教できる身分か？」と自省してしまうこともあるでしょう。確かに道徳教育は難しいです。だからこそ、偉人伝を活用して、偉人の生き方を学ぶことが最適だと考えます。

・たとえば、私は米国のホームラン王、ベーブルースの伝記を読んだことがあります。小さい頃は不良でしたが、野球に才能を見出し、世界で愛される「ベーブ」となりました。このような話は、生きる励みになると思います。

<考え方>

・大和市には素晴らしい人材がたくさんいます。ノーベル化学賞の根岸英一さんも大和市南林間出身です。根岸さんは著書『夢を持ち続けよう！』のなかで「世界でトップのところを探して、そこに競争の場を求めべきです」「自分の高い“夢”を設定したら、そこに向かってあきらめずに、突き詰めていくことです」と記し、大志を持ち続けることの重要性を訴えています。このような偉人の生き方を学ぶことは、郷土愛を高めるとともに、道徳観の育成にもつながると考えます。根岸さんのような大和市出身の偉人の生き方を冊子やパンフレットなどにまとめ、道徳の授業の中に取り入れてみてはどうでしょうか。

アタック 13：メディアリテラシー教育推進で多角的な目を養う人材を育成

<問題意識>

・「新聞は皆同じではありません」。私を16年間育てていただいた産経新聞の昔のテレビCMのキャッチコピーが、これでした。一般に、産経新聞や読売新聞は保守系とされる一方、朝日新聞、毎日新聞はリベラル系と分類されます。同じ素材のニュースを扱っても、取り上げ方や扱いが全然違うことが度々あります。ただ、読者の中には、自身が読む新聞の情報を鵜呑みにしがちな方も多数います。

・インターネットが普及し、情報を得る手段は多様化しています。ただし、インターネット上には、怪情報や誤情報も少なくありません。怪情報に惑わされず、適切な情報を取捨選択する能力は、情報化が進む現代社会においてますます高まっていると考えます。

<考え方>

・中学生を対象に、「総合的な学習の時間」などを活用して、情報を主体的に読み解き活用するメディアリテラシー教育の導入を提案します。社説や論調を比較する。あえて自分と考えが逆の意見を読んでみる。ディベート能力を強化する。この情報は正しいのかどうかを疑ってみる…。多角的な視点を持つことは子供たちが社会に羽ばたいてからも役に立つ能力だと考えます。

アタック 14：退職高齢者の積極登用で子供と高齢者が共生する教育環境を整備

<問題意識>

・「お年寄りを敬おう」「電車で席を譲ろう」。このような徳目は誰しも疑うものではありません。ただ、頭では分かっている、行動に移すのは難しい面もあります。核家族化が進むなか、お年寄りとお孫さんたちが日々触れ合い、一緒に実体験を重ねていくことが大切だと考えます。

<考え方>

・放課後児童クラブに、退職した高齢者に積極的に登用する。高齢者にたとえば、折り紙を教えてもらう。昔の話をしてもらう…。高齢化社会が進む中、高齢者と子供たちがともに生活する時間を増やすことで、子供や若者と高齢者が共生する街づくりを進めたいと考えます。

・退職した高齢者には、地域社会への参画を望む方も多いはずですが。小・中学生を対象に、退職した高齢者の方から、「どんな仕事をしていたか」や「仕事の面白さ」などを聞く「職業教育」を積極的に推進してはどうでしょうか。

アタック15：生涯学習やサークル活動充実で誰もが学びやすい街へ

<問題意識>

・「人々が、生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」。文部科学省の資料によれば、これが生涯学習社会の定義とされます。

・学習するのは何も学生だけではありません。会社員や自営業者、退職した高齢者の方でも日々学び、研鑽を積みたい方はたくさんいらっしゃいます。人生80年の時代を迎え、退職後の人生も長期化しています。

<考え方>

・ダンス、日本舞踊、囲碁・将棋、座禅、ヨガ、凧あげ…。生涯学習の範囲は、学問的な勉強だけにとどまりません。私自身、小さい頃、大和市内のコミュニティーセンターを活用して、祖父から居合道を学びました。生涯学習に関するサークル活動の情報などを積極的に発信し、生涯学習の機会を拡大、活発化することで、「住んでよかった」と思える街づくりを進めたいと考えます。

(了)